企画展 京都大学の西田幾多郎

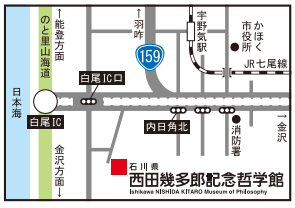
令和元年 10/1（火）— 令和2年 3/22（日）

2018年、西田幾多郎生誕の地・ゆかりの地交流事業として「京都大学の西田幾多郎」展が京都大学で開催されました。この度の企画展は、京大での展示を石川県西田幾多郎記念哲学館にて再現、一部展示物を入れ替え新たに開催するものです。
写真：京都大学大学文書館蔵　右上：京都帝国大学文科大学助教授辞令（1910年）

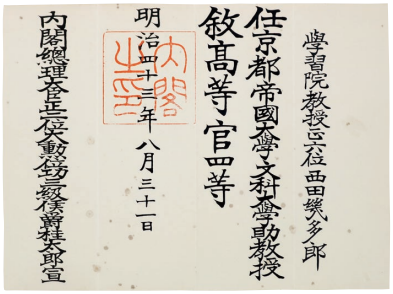
石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy
〒929-1126 石川県かほく市内日角井1
TEL(076)283-6600 FAX(076)283-6320
URL http://www. nishidatetsugakukan. org/
E-mail nishida-museum@city. kahoku. lg. jp
■facebook はじめました。イベント関連情報も随時更新中です。

観覧時間■9:00～17:30（入室は17:00まで）
休 館 日■月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）
観 覧 料■一般300円／高齢者（65歳以上）200円／高校生以下無料

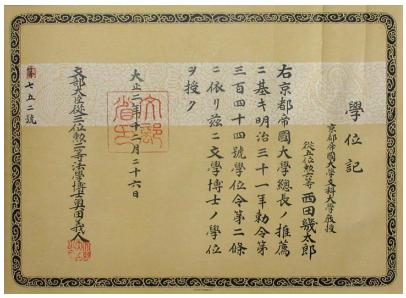
交通アクセス
【車 利用】北陸自動車道［金沢東IC］－国道159号線〈約20分〉
のと里山海道［白尾IC］－〈約5分〉
【JR 利用】金沢駅－IRいしかわ鉄道線・七尾線〈約25分〉－宇野気駅－
－徒歩〈約20分〉－哲学館



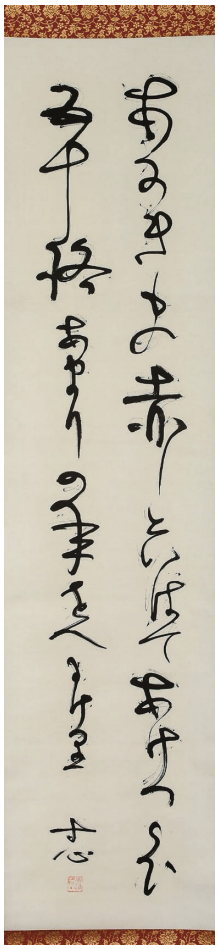
「哲学倫理卒業生と」1913（大正 2）年 7 月
※中列中央が西田幾多郎（43 才）、西田をはさんで左が桑木厳翼、右が朝永三十郎。
西田の右後ろが学生であった天野貞祐。石川県西田幾多郎記念哲学館蔵



京都帝国大学文科大学助教授辞令
1910（明治 43）年 8 月 31 日
赴任当初は、留学した友枝高彦の後任として倫理学講座担当であった。西田 40 歳。
石川県西田幾多郎記念哲学館蔵

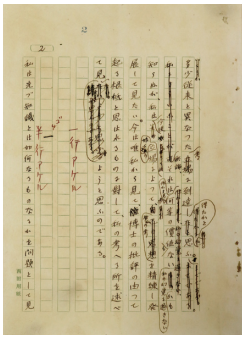


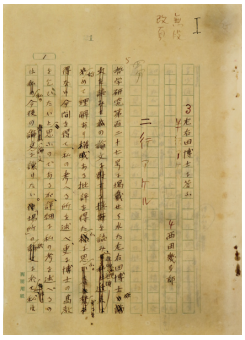
学位記　文学博士　1913（大正 2）年 12 月 26 日
同年 8 月、教授に任命され宗教学講座担当となっている。
石川県西田幾多郎記念哲学館蔵



直筆掛軸
「あかきもの赤しといはてあけつらひ　五十路あまりの年をへにけり　寸心」石川県西田幾多郎記念哲学館蔵

「京都で話す西田」　時期不明
石川県西田幾多郎記念哲学館蔵





直筆原稿「左右田博士に答ふ」1927（昭和 2）年
※複製展示　石川県西田幾多郎記念哲学館蔵

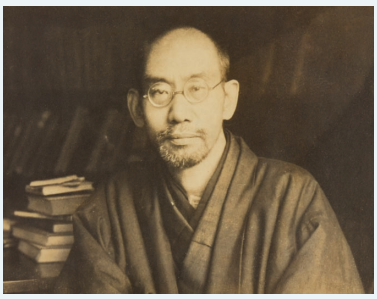
期間限定展示

第三高等学校を卒業したばかりであった亡児謙の記念に、西田は本を寄贈している。左:『カント全集第一巻』右：『フィヒテ著作集第一巻』の見返しには、謙の写真とともに自作の短歌が記されている。
京都大学吉田南総合図書館蔵
※展示期間3月は、22日(日)まで

展示物 ＼ 展示時期	令和元年10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月※
『カント全集第一巻』	○			○		
『フィヒテ著作集第一巻』		○			○	
ヴィンデルバント『哲学概論』			○			○

企画展 京都大学の西田幾多郎

令和元年 10/1（火）— 令和 2 年 3/22（日）



西田幾多郎は明治 43（1910）年、40 歳の時に京都帝国大学文科大学の助教授となりました。赴任の翌年に日本で最初の体系的な哲学書といわれる『善の研究』を出版、幾多郎は次々と論文を発表し、やがてその思想は「西田哲学」と呼ばれるようになっていきます。京都大学には幾多郎を慕い多くの優秀な人材が集まり、のちに京都学派と呼ばれる集団がつくられていきました。世間で高い評価を受け哲学者として活躍する一方、幾多郎の私生活は家族の病臥と死が相次ぐ不幸の連続でした。そんな公私ともに苦悩の連続であった京都時代の西田幾多郎を、京都大学に残る資料とともに紹介します。